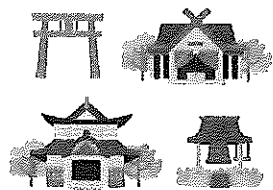


～ご参加の皆さまへお願い～

- ・市内探訪では、集合から解散まで統一行動となっています。
- ・歩行中は一列又は二列で歩き、道路横断時などは交通安全に十分気を付けてください。
- ・急坂、石段などがありますので、足元に注意してください。
- ・昆虫や植物などは採集しなしてください。
- ・地元の方々のご理解・ご協力をいただき、神社や寺院等に伺いますので、失礼のないように注意してください。
- ・ゴミは、各自お持ち帰りください。
- ・記念写真を撮る場合がありますので、ご了承ください。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用・検温等にご協力ください。



私たち市民解説員は、ふるさとあきる野を愛し、地域の自然・歴史・文化の再発見に努めるとともに、これらを市民の皆様や市外から訪れる方々に紹介し、まちづくりと生涯学習の推進を図る学習ボランティアです。

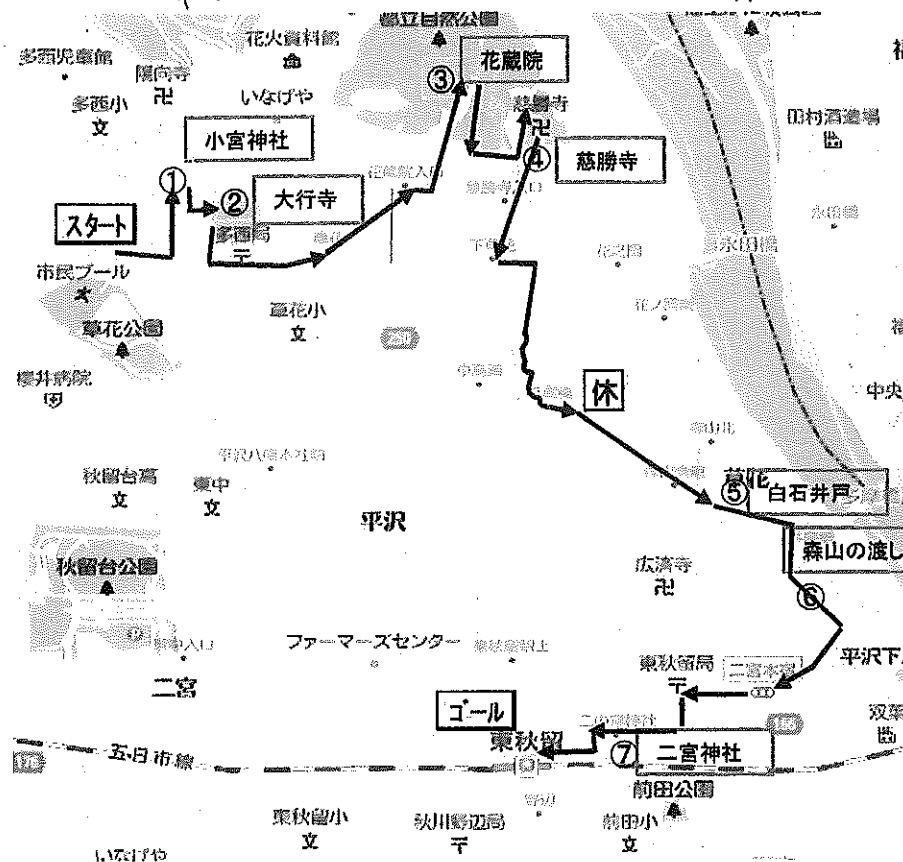
あきる野市は、自然や遺跡、文化財の宝庫です。美しく恵まれた環境のもとで、地域の皆さまと一緒に学びあい、活動できることを嬉しく思っています。

今後ともよろしく願いいたします。

企画・実施担当市民解説員
加藤正昭・住友恒正・市来政幸・佐々木時男

市民解説員が案内する市内探訪

「もみじに染まる多面の半日」



探訪順路

JR秋川駅北口集合(9:00)受付→秋川駅→あきる野市民球場バス停→
①小宮神社→②大行寺→③花蔵院→④慈勝寺→⑤白石井戸→
⑥森山の渡し→⑦二宮神社の御手洗池→東秋留駅解散

令和 3年 11月 19日
あきる野市 中央公民館

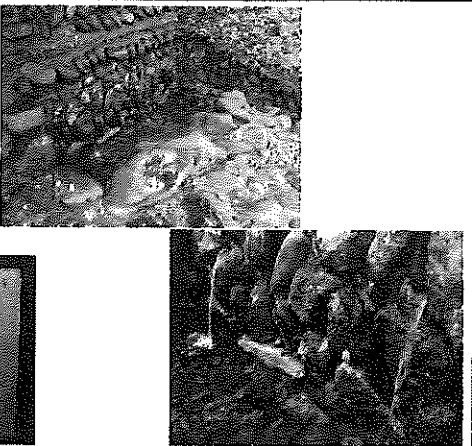
① 小宮神社
こみやじんじや
所在地: あきる野市草花2981
創建: 不詳(承元元年1207年)
祭神: 伊邪那岐大神(いざなぎのおおみかみ)
沿革: 往時は多摩郡小宮領800石の総領守「小宮大明神」として一般庶民の信仰は厚かった。室町時代には、鎌倉管領上杉氏に縁りがあったと思われる小宮上野介憲明がこの地を領し、祈願所として社殿を再建。後に大石氏の祈願所、後北条氏の祈願所にもなった。明治二年に小宮明神から小宮神社に改め神官が設けられ別当大行寺から独立
御朱印: 徳川幕府より7石
文化財: 梵鐘(寛正四年・1463年上野介憲明が奉納 小宮神社獅子舞(秋分の日に奉納))

② 鎮守山明王院 大行寺(真言宗豊山派)
ちんじゆさんみょうおういん だいぎょうじ
所在地: あきる野市草花3036
創建: 建永2年(1207年)
開基: 平山季重
本尊: 木造不動明王 二童子侍立
沿革: 開山当時は平山季重の祈禱所となる。その後室町時代には小宮上野介憲明の祈禱所となり寺領七石を賜った。二度の火災で古記録類を焼失。寺の由緒の詳細は不明
明治6年には開明学舎が開校。
多摩八十八ヶ所霊場57番です
御朱印: 徳川幕府より13石・別当分7石 計20石
文化財: 写経の残欠
一行一七字、六行分と四行分とあり、六行分は弘法大師直筆と伝えられている

③ 草花山 花蔵院(真言宗豊山派)
そうかさん けそういん
所在地: あきる野市草花1740
創建: 弘長3年(1263年)
開基: 利栄上人・弘長4年(1264年)又は頼栄上人
本尊: 木造不動明王坐像・長一尺六寸(智燈大師作) 二童子侍立
沿革: 天正年間には北条氏照の祈願所
元禄年間火災に遭い伽藍焼失
江戸末期、小名花ノ岡より当地へ移転
明治16年開明学校花蔵院分校場が開校
明治25年まで供用されていた。
御朱印: 徳川幕府より5石
文化財: 山門(櫻材を主とし当時として格式高い門) 二重垂木切妻造り扉付き
平成9年の解体修理の際に、正徳3年(1713年) 建立と判明

④ 福寿山 慈勝寺(臨済宗建長寺派)
ふくじゆさん じしやうじ
所在地: あきる野市草花1811
創建: 文治4年(1188年) 畠山重忠が建立
再興: 永正2年(1505年)戸倉光厳寺十三世賞山得和尚が再興
中興: 天文11年(1642年)に臨済宗建長寺末となる
本尊: 聖観世音菩薩
沿革: 天正18年(1690年)秀吉による八王子城攻略の折に、前田利家・上杉景勝の兵により放火され伽藍すべて焼失。地域民話(比企尼平)として語り継がれている
御朱印: 徳川幕府より13石
見所: モッコク(本堂前)樹齢700年

⑤ 白石の井戸跡
元は白い石の真ん中の穴から湧水がでていましたが、石は盗まれて今はありません。正月の蘿蔔づくりには、この水をもらいに来る人で賑わい露店も出たといひます。森山会館前から北西に福寿公園に下る坂「福寿庵坂」の途中に「白石の井戸跡」の説明板があります。



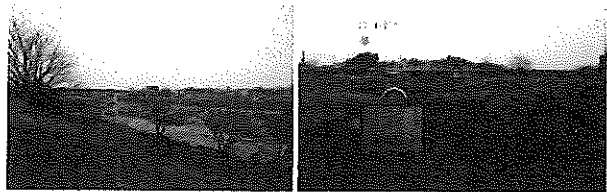
小宮神社本殿
大行寺鐘樓



慈勝寺のモッコク:都の天然記念物
幹回:2.25m
樹高:22.5m



⑥ 森山の渡し
かつての五日市街道は、多西橋より200mほど下流側を通過して、多摩川は船で渡っていました。渡し舟は承応年間(1652~1655年)に始まったと伝えられ渡し場が左岸の熊川町(現・羽村町)牛浜にあったことから「牛浜の渡し」でしたが、明治23年、右岸の現あきる野市草花に管理が移って、大正14年に多摩橋が架かり渡し舟が廃止されるまで、「森山の渡し」と呼ばれたそうです。
「森山の渡し」から多西橋を眺めると左(南)に平井川、右(北)に多摩川が流れ、2本の川に挟まれた地域は草花丘陵の小高い丘が続いていて、その先端には、森山神社が鎮座しています。



⑦ 二宮神社のお池
二宮神社の参道の石段を降り、道路の向かい側に渡ると「都の名湧水57選」である「二宮神社お池」があります。日本武尊が日照りの為、飲み水に困り、水の神様である国常立尊(くにとこたちのみこと)を祀った際に湧き出した水である、という言い伝えがあります。お池の中には1990年(平成2年)菅野遊邦作の「雨乞いの男」という、座って横笛を吹いている男の像があり、昔ここで雨乞いをしていたという言い伝えに基づいて制作されたものです。
八雲神社の湧水も「都の名湧水57選」です(あきる野市野辺316)

